

◆総務大臣賞◆

〈社会教育部門〉(学校との連携事例を含む)

「IT活用授業モデルの収集による『わかる授業』への取組」

宮崎県宮崎市教育情報研修センター

〒880-0803 宮崎県宮崎市旭1-4-1

■実践事例報告の概要

宮崎市では、「わかる授業」構築を目指して、文部科学省生涯学習政策課「デジタルコンテンツの活用高度化事業」の採択を受けて、デジタルコンテンツ活用の授業プランを1年間で264事例収集した。集まった事例の評価をした結果、「あまりよくない」との評価を受けた事例は、授業プランの改善を行うことで、よい事例となるが多かった。また、改善点として指摘の多いものは、授業プランにおいて「発問・指示等の明確化・変更・追加」があり、今後の研修のポイントにすることとした。根本的な改善を指摘されたものについては、授業設計等の研修が必要なことが明らかになった。

実践のねらい

本実践は、文部科学省の委託を受け実施されているものでもある。市内小・中学校にある教育用コンピュータ4,660台を有し、すべての学級からインターネットに接続した宮崎市は、デジタルコンテンツを活用した「わかる授業」の推進をしている。教師がコンピュータを使って「わかる授業」の構築ができ、児童・生徒の学力向上に寄与することが究極のねらいである。そのための手立てとして、たくさんの活用事例をWeb上で収集し、授業実践のクオリティーを高めることを、本実践のねらいとした。

特徴・工夫・努力した点

わかる授業のためのコンピュータ活用を促進する目的で、組織作りをし、毎年250事例以上を収集し、すぐに実践できるよう教科・単元などで検索できるようにした(図)。また、全校が参加する事例開発のプロセスが教員研修になり、市内教員の力量向上を図ることになると考えられた。

実践内容

(1) 事例研究委員(各校1名の情報教育担当者)

1999年から宮崎市は、各学校に「情報教育担当者」を校務分掌上に置き、学校の情報化やトラブル

図・宮崎市デジタルコンテンツ活用授業モデル収集プロジェクトの概要

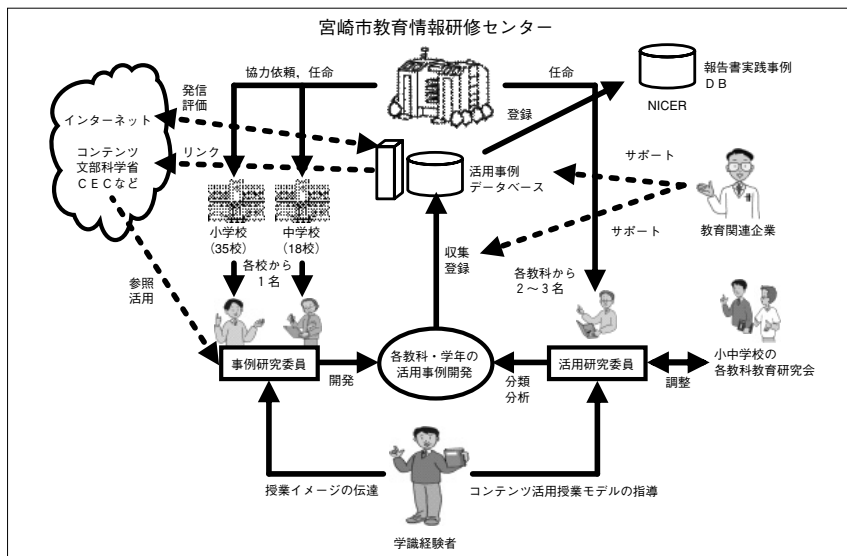


表1・デジタルコンテンツを活用した授業プランを評価した項目

<b>デジタルコンテンツについて</b>
1. 教師自身がおもしろいと思う内容か
2. 子ども向けの内容か
3. 利用目的がはっきりしている内容か
<b>授業プランについて</b>
1. 発問・指示が明確になっているか
2. 使うタイミングはどうか
3. 授業の目標を達成できる内容か
<b>全体評価</b>
全ての設問で、以下の4択
①よい ②まあまあよい ③あまりよくない ④よくない

表2・DC活用において「よくない」改善点として挙げられた項目の出現度数

授業プラン改善点			DC改善点
根本的な改善	展開の変更	加除修正	DC改善
再構築 (9)	展開の変更 (15)	発問・指示等を増やす (11)	DC使いやす いリンク (10)
条件外 (9)	時間配分を増 やす (7)	発問・指示等 明確に (5)	DC精選 (5)
本時目標 (4)	DC活用場面 変更 (6)	発問・指示等 変更 (1)	DC変更 (2)
		興味関心を高 める工夫 (8)	
計 (22)	計 (28)	計 (17)	計 (17)

(文末のかっこ内の数字は出現度数)

対応等に役立つ研修を深めてきている。2002年からの研修では、主にデジタルコンテンツ活用について見方・考え方を中心に深めてきている。

さらに、各学校から効果的な活用について5事例以上を集める中心的存在となっている。

## (2) 活用研究委員 (各教科2名づつの委嘱)

集まった実践のクオリティーを保つため、事例を集めた後、それを評価することが必要である。評価は、各教科のエキスパートを委嘱し、教科等の目標に照らし合わせて行う。

## (3) 教育ソフトメーカーによる技術サポート

宮崎市にかかわってきた教育関連企業として、登録や検索の操作で教師が効率的に活用できるよう、技術的な支援を行う。

## (4) 学識経験者の活用

研究者が入ることによって、事例開発のノウハウやデジタルコンテンツの見方・考え方、ならびに授業イメージをモデル化することにより、今後の授業作りに役立つ内容に結びつける。

## (5) 教育委員会の役割

宮崎市教育委員会は、教育情報研修センターを中心として、研修の場や事例収集・公表の場の提供等、トータルコーディネートをを行う。

## 実践結果

デジタルコンテンツを活用した事例を評価した。評価の項目は、表1に示すとおりである。

「あまりよくない」という評価の事例は、授業プラン評価とデジタルコンテンツの評価が分かれる事例が多い。また、「あまりよくない」評価事例

の改善点としては、評価者の記述から、表2に示すようになった。

## 授業プラン・コンテンツの評価について

全体評価「あまりよくない」評価のものは、授業プランをあと一工夫することによって、「まあまあよい」の評価になり得ることが明らかになった。このことは、教師教育(研修)を行う上で、大きなポイントなる。

## 授業プラン・コンテンツの改善点について

改善点の項目で注目するのは、発問・指示等の記述について多くの加除修正があることである。発問・指示等を詳しく明確にすることは、より具体的にデジタルコンテンツの見方やポイントを押さえることにつながる。そして、これらのことを研修等で取り上げることにより、クオリティーの高い事例を収集することが可能になると考えられる。また、根本的な改善や展開の変更を改善点で挙げられている事例については、授業設計構築の研修が必要であることも明らかになった。

## 考察 (今後の課題)

今回の実践において、デジタルコンテンツを活用することは、教師教育における授業の見直し(再構築)になることがわかった。基本となる授業プランや発問等が吟味されてデジタルコンテンツも生かされるという考え方は、今後の研修においても授業する力を伸ばす一助になる。

今後、どのようなパターンがデジタルコンテンツを活用する際に効果的なのか、もしくは効果がないのかを実践研究していくことが必要である。